

平成23年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	23K19	氏名	恩田 広樹
研究主題 —副主題—	学級経営と学校経営の理念と実践 —諸外国の教育行政制度から考える学校教育と教員の在り方—		
所属校	北区立西浮間小学校	派遣先	早稲田大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>①「学級経営と学校経営の理念と実践」 大学院の講義や実習を通じて、学級経営のスキルアップを図るとともに、中堅教員として若手教諭の学級経営をサポートする力量を身に付ける。また、学校経営について管理職の視点から学校の取り組みを考察し、学校づくりを推進する力を養う。</p> <p>②「諸外国の教育行政制度から考える学校教育と教員の在り方」 2ヶ国程度の諸外国の教育行政制度について文献資料を中心に研究し、学校教育制度や教員に求められる職務内容についての理解を深め、日本の教育に取り入れられる要素を考察する。</p>
II 研究の方法	<p>①「学級経営と学校経営の理念と実践」 大学院の履修科目を通じて学んだ理論を、実習を通して実践しながら検証した。また、大学院の実習校のみならず、所属校においても東京都で認められている範囲で、自主的な実習を行いながら、学級経営の理論を検証した。学校経営に関しては実習校の「特色のある教育」の取り組みに参加し、管理職の視点から学校づくりに対する考察を深めた。特に「地域連携」に焦点をあてて、「地域協働学校」の取り組みについて、スクールコーディネーターの役割や管理職のリーダーシップの重要性について考察した。</p> <p>履修した科目 <前期>・学級経営の理論/学級経営の実証的研究 ・学校経営に活かす教育データ分析の実践研究 ・授業設計の実践力/授業分析の実践力 ・個別カウンセリング理論と実践 ・カリキュラム開発の理論と実践 ・学級経営の実践力研究 ・学校カウンセリングの理論と技術 ・心理教育的アセスメントと個別の指導計画 <夏期>・グループダイナミクスの実践演習 ・心理教育的アセスメントを活かした授業実践 ・自然体験教育を通じたグループ活動演習 ・学力調査・評価の方法と活用 <後期>・カリキュラム・マネジメントの理論と実践 ・学校組織開発の理論と実践 ・担任学の実践研究 ・児童生徒の社会性・規範意識を育てる開発研究 ・学校マネジメントと学校再生に関する理論と事例研究 ・子供の対人関係育成の実践研究 ・学校とコミュニティ開発 ・教員の社会的役割と職業倫理 ・いのちの教育 ・多文化・異文化間教育の実践的研究</p> <p>②「諸外国の教育行政制度から考える学校教育と教員の在り方」 諸外国の学校教育制度や教員に求められる職務内容について文献資料をもとに研究した。研究対象国はフィンランドとイギリスを取り上げた。 フィンランドの教育はOECDのPISAの結果において、継続して上位の位置にあり、今日注目を集めている。そのような結果を出し続けている教育行政について研究し、取り入れることができる要素を考察していく。また、イギリスは1970年代に英国病と呼ばれる経済問題を機に、国際競争力の創出を目指し、保守政党による教育改革が行われ、その後も21世紀に入り労働党政権によって改革は継承されている。日本の新自由主義的な競争と統制の教育改革との共通性がいわれる、イギリスの教育改革とその結果を通して、今後の日本の教育制度について考察する。 イギリスに関しては、IOE（ロンドン大学）と早稲田大学との交流プログラム（3月中旬）があり、その交流プログラムに参加し、実際の教育現場を視察や教育関係者へのインタビューを行う。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>①「学級経営と学校経営の理念と実践」</p> <p><学級経営>河村茂雄教授の「学級経営の理論」および「学級経営の実証的研究」において、カウンセリングの知見を用いた学級経営の基本的な考え方を学ぶことができた。自分自身の体験と理論が蝶番のようにかみあっていることに驚嘆しつつ、所属校ではQ-U検査を実施して理論の数値的検証ができた。理論を上手く現場に生かし、効果が上がることを実感することができた。若手教員に対して学級経営について一緒に考えていくベースをもつことができたと思う。</p> <p>また、心理系の科目「個別カウンセリング理論と実践」「心理教育的アセスメントと個別の指導計画」「心理教育的アセスメントを活かした授業実践」「子供の対人関係育成の実践研究」「学校カウンセリングの理論と技術」などでは、教師が児童をどのように観ているかという傾向を理解し、教師自身の癖を押さえたうえで、細かく一人一人を見ていく手法を学び、自分自身の課題を明確にすることができた。さらに特別支援を要する児童の理解や具体的な学習方法、接し方のポイントなど、すぐに明日からの学級経営に役立つことを学ぶことができたが、個別対応は児童の実態が多岐にわたるため、今後の経験を通して個別のケースで検証する必要がある。どんな児童であってもその子の能力を向上させることができる具体的な手立てについて、考察を続けていきたい。</p> <p><学校経営>「学校とコミュニティ開発」の講義を通して、地域協働学校の在り方への考察を深めた。日本におけるコミュニティースクールの在り方は、学校連絡協議会に人事権まで含めるイギリス型をそのまま導入するよりも、最終的な権限は学校長が維持するほうが望ましいと思う。「学校組織開発の理論と実践」や「学校マネジメントと学校再生に関する理論と事例研究」などの科目を通して、様々な学校の事例から学校経営の手法についての考察を深めることができた。</p> <p><実習>履修した科目の学びを、実習で検証した結果、学んだ事例はあくまでも事例にすぎず、大事なことは実態にあった試みを実践するということが重要であるということを感じた。目の前にいる児童・生徒、学校の実態をありのまま受け止め分析し、その学校や学級、個々の児童・生徒に適合した教育を創造することを丁寧に行うことの重要性を再認識した。</p> <p>②「諸外国の教育行政制度から考える学校教育と教員の在り方」</p> <p>フィンランドの教育制度ポイントは①リテラシーに対するフィンランド人の高い関心、②平等な教育システム、③教師教育の質の高さ、④福祉国家ならではの学びのインフラ整備、の4点に絞ることができる。このような教育制度のもと、学校の規模は一人の校長が実質的な育ちを掌握できる範囲の生徒数であり、児童生徒の主体的な学びを保障する授業形態は参考となった。</p> <p>イギリスの教育改革のポイントは、市場原理による改革を推進し教育水準を向上させようとしたことである。そして、中央の権限強化を行い、社会や経済のニーズに即応できる教育を目指した。しかし、この改革は未だ成功したとはいえない。日本においても新自由主義的な路線で突き進んできた結果、学力は低下していると言われている。イギリスでは教師の専門職性の再編を行い、教育水準を上げようとする試みがなされており、新自由主義や社会民主主義を乗り越える第三の道を模索している。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>①「学級経営と学校経営の理念と実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修科目を通して、経験を裏付ける理論を学び、理論と実践を関連付けることができた。 ・カウンセリングの知見を活かした経営理論を基にして、若手教員の学級経営に対する具体的な改善策を提案や助言を行うミドルリーダーとしての力量を、向上させることができた。 ・地域協働学校の理念や組織作りについて、学校経営の視点から考察を深めることができた。 <p>②「諸外国の教育行政制度から考える学校教育と教員の在り方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィンランドの教育制度のメリットを理解することができ、日本の少人数教育や複式学級の可能性を探り、考察を深めることができた。 ・イギリスの教育改革のポイントや改革の成果と課題を、日本と比較検討することができた。